

やまと 民俗への招待

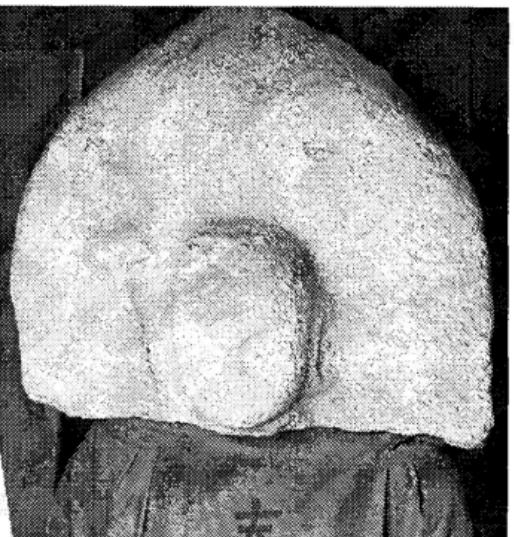
鹿谷 熱

6月末の土曜日、急に思い立つて近鉄橿原線の結崎駅から天理まで歩いた。昼ごろ結崎の駅に着き、「結崎ネアカ」を出すといううどん屋で昼食。ネアカ(ネギ)はやはり冬場のみだった。

蒸し暑い日中の道を、北東方向に歩く。京奈和道を越えると天理市庵治町の菅原神社と称念寺。さらに東に進むと「下ツ道」。北上して大和川を渡ると「南無妙法蓮華經」と太字で刻んだ石塔がある。摂津の日蓮僧日栄の建てた題目塔で、道しるべを兼ねる。一石二字塔とあるので、その下には一字ずつ法華経の経文を記した石が埋められてい

結崎から天理へ歩く

るのだろう。さらに布留北流の橋を通り、国道24号を東に渡り、落ち着いたたずまいの嘉幡の集落に入る。重要文化財内には十羅刹女堂と公民館がある。参拝して拝殿をのぞくと西側に明治39(1906)年の大規模な露戦役繪馬が掲げられていた。嘉幡の東南の小島町の氏神にも参ってから、合場町の三十八社神社へ行く。広い境内には愛宕灯籠や太神宮や心経講中の石灯籠などが並んでいて見ることもできる。



天理市田井庄町の首切り地蔵=筆者提供

安時代の寛弘4(1007)年に関白藤原道長が金峯山詔でをした時に宿泊した所だという。傍らの観音堂には平安時代後期の十一面観音立像(重文)が祀られている。しばらくここで休憩する。ひんやりとした森に囲まれた東井戸堂町の藤丸大門神というお稻荷さんをのぞいてから、北東の天理駅をめざす。

駅のすぐ南に首切り地蔵がある。ジャンジャンとうなりながら飛んでくる火の玉を払おうと刀を振る回した浪人によって地

藏の首が切り落とされたのだ。この火はジャンジャン火、ホイホイ火といい、松永彈正に攻められて焼死したというこの地の十市遠忠の怨念だといわれる。見ている

のだと、この火はジャンジャン火、ホイホイ火といい、松永彈正に攻められて焼死したというこの地の十市遠忠の怨念だといわれる。見ている

表

(奈良民俗文化研究所代)